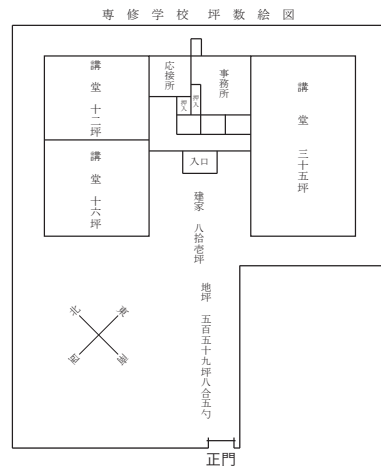




資料1：明治32年頃の専修学校正門（風俗画報増刊『東京名所図会 神田区之部上巻』第193号）



資料2：専修学校坪数絵図（東京都公文書館所蔵資料を加工）

# 専修学校の正門は 黒？ それとも 青？

平成22年（2010）、専修大学は神保町駅からほど近い、専大通りに面した場所に、明治時代の専修学校（専修大学の前身）の正門を育友会からの寄贈によって復元しました。通称「黒門」です。ご覧になった方も多いでしょう。専修学校が、明治18年（1885）に現在の神田キャンパスの地に念願であった新校舎を落成した際の正門が、この「黒門」でした（資料1）。その形状から冠木門とも言われます。

江戸時代、この一帯は幕府に仕えた旗本や御家人たちの屋敷があった場所です。そして御家人の屋敷でよく使われていたのが、2本の柱の上部に横材を渡した屋根の無い簡素な門、冠木門だったのです。専修学校はこの地にもともとあった黒塗りの冠木門をそのまま正門として使用したのでしょうか。「東大の赤門」ならぬ、「専修の黒門」というわけです。

この冠木門が専修学校の正門であった時代は、明治18年から校舎を大幅に改築した明治39年までのことと考えられています。しかし、管見の限り、この時期の教職員や生徒の回顧録や同時期に刊行された学校案内書に、「黒門」という言葉は出てきません。実は、「黒門」＝専修というイメージを積極的に打ち出していくのは時代が遙かに下る昭和40年前後

資料3：育友会が神田校舎に復元した黒門



のことです。専修大学の三大イベントの一つ「黒門祭」の誕生も昭和42年（1967）のことでした。

一方、明治36年に開催された専修学校理財学会の「開会の辞」のなかで、当時、講師を務めていた工業経済学者・鈴木純一郎は学校の所在地と建物を、「御嶽さんと云ふ神様の横町を行つて右側で青い門のある屋敷」と説明しています。つまり、御嶽神社の参道の先の右手にある建物が専修学校で、その門は青色であったと鈴木は述べているのです。鈴木という言葉信じれば、「黒門の専修」ではなく「青門の専修」になってしまいます。

当時の平面図（資料2）を見ても専修学校の門は正門一つだけです。そして今となっては、「黒門」の姿は白黒写真でしか見ることができません。「黒門」か「青門」か。事実を知るためには新たな資料の発見を待つほかありませんが、明治13年創立という私学有数の歴史を誇る専修大学ならではの謎と言えるでしょう。（大学史資料室）